

パチンコ・パチスロ産業 合同賀詞交歓会開催

RSNの14団体支援が正式決定、ホール5団体風営法検討会設置へ

パチンコ・パチスロ産業を構成する業界14団体は1月25日、都内港区の新橋第一ホテルにおいて共催による合同の賀詞交歓会を開催した。遊技産業健全化推進機構の河上代表の発案で業界団体の新年会が一元化されて今回の3回目の開催。14団体の代表として全日遊連の原田理事長、日工組の市原理事長、日電協の里見理事長が挨拶をおこなった他、警察庁生活安全局保安課の加藤課長が来場して祝辞を述べた。

全日遊連 原田理事長

「あらゆる産業が国民から税金に必要かどうか、その存在意義を問われている。我々パチンコ業界も業界に属する全ての人々がその答えを導きだしていかなければならない。パチンコ依存問題への対策に関して今後14団体で取り組むこととなった。このような団体間の距離は過去にない良いものと実感している。この流れを継続し、本年が業界にとって輝かしい1年になれば」と

日工組 市原理事長

「昨年は日工組にとって大変厳しい1年だった。やはり射幸性に頼った機械作りが進退してしまっただけが原因と考えている。本年は日工組の総会決議にもあるように多種多様な



遊技機を開発していくことが最重要課題だと思っている。あわせてエンドユーザーを増やす何らかの施策を

日工組としても提案していきたい

日電協 里見理事長



「昨年は業界、日本全体含めて非常に厳しい1年だった。昨今はお年寄りがゲームセンターで安価にメダル



西村代表 深谷会長 里見理事長

遊技機を開発していくことが最重要課題だと思っている。あわせてエンドユーザーを増やす何らかの施策を



ゲームなどを楽しみながら集まって、コミュニティ形成しているという。我々パチンコ業界も、ここにいる業界団体に研究し、そのような場にするのができればと素晴らしいのではないかと思う。暗いことは考えていても仕方ない。楽しんで遊んでもらえるような機械作りを励んでいきたい」

日電協 深谷会長

「14団体のそれぞれの輝が大地にしっかりと根を張り、栄養を吸収し、太陽の光を浴びて成長、そして14団体が森のように助けあう、そのような年にしたい。健全化を実現し、風営法の元、国家国民に娯楽を提供していきたい」

RSN 西村代表

「5年前に全日遊連の企画を元にパチンコ依存問題の電話相談機関として活動を開始。年間1000件を超える相談を受けながら、ようやく皆さんの一支援を受け、さらに活動を広げる機会を得ることができた。娯楽の楽しい部分は皆さんがドンドン拡大していただいて、そこに潜り込める部分は、私どもが何をどう対処すればよいのか、的確に取り組んでいきたい」

警察庁生活安全局保安課 加藤課長 「のめり込みの問題、不正改造の問題など、業界の健全化を阻害する要因はまだ存在する。行政としても著しく射幸性の高い遊技機の規制、不正改造事業の徹底検査等をおこなっている。業界としては、1円パチンコに代表される遊技料金の低価格化、より射幸性の低い遊技機の開発など

を行い、お客さんが手軽に安く安心して遊べる遊技環境作りをされておす。本年もこれらの取り組みを継続、発展していただきたい。今後業界が一枚葉になり、立場が違っても業界団体が考えをひとつにまとめる機会を設け、業界自らが主体的に健全化を図るための様々な課題を検討され、解決に向けて努力されることを期待する」

RSNの14団体支援が決定

「これまで全日遊連が単独で資金援助していた、のめり込み防止専門電話相談機関、リカバリーサポートネットワーク(RSN)を、業界14団体で支援していくことが、昨年12月に開催されたパチンコ・パチスロ産業21世紀会で正式決定。RSNの西村代表と業界団体の代表が壇上で握手を交わした。

ホール5団体 風営法検討会設置を核とした5団体宣言

ホール5団体(全日遊連、日遊協、同友会、余暇連、PCSA)が行政へ改善要望を行っていくことを目的に、現行風営法の問題点を月1回程度協議する「風営法検討会」を設置することを軸としたホール5団体宣言を發表。5団体の代表者が握手を交わした。